

7/22 地元のお米900kgを子どもたちに



▲西村市長に目録を手渡すアスリートファーマーズ加西のメンバー。

市内認定農業者らで結成する「アスリートファーマーズ加西」が、加西のお米ですくすくと育ててほしいとの思いから、公立の幼稚園や保育所、認定こども園に、今秋収穫するヒノヒカリ玄米 900kgを寄贈します。

東郷正春会長は「有機栽培、減農薬栽培で大切に育てているおいしいお米を子どもたちに食べてもらい、ご飯を大好きになってほしい」と話されました。

7/28 市内企業の高度な技術を学ぶ



▲パワーモラ（伊東電機が開発）を使用したローラーコンベヤ。

加西商工会議所は、地元企業への関心を高めてもらうことや社会体験学習の一環として、7月28、29日に小学生対象の「産業・観光ツアー」を開催しました。

2日間で計49組100人の親子らが、伊東電機(株)、菅野包装資材(株)、(株)丸中製菓、(株)千石、是常精工(株)、(株)シルバーロイを見学。加西のものづくり企業などの技術を生かした製造工程を学びました。

8/3 加西特産「ベリーA」味わって



▲かさい愛菜館（豊倉町）で販売されている加西のブドウ。

加西市特産のブドウ「加西ゴールデンベリーA」の出荷が始まりました。今年のブドウは、生育状況も良好で、糖度・粒ばり・色づきともに申し分なく、おいしく仕上がっています。

出荷はベリーAが9月中旬、ピオーネやシャインマスカットなどの大粒は9月下旬まで続き、かさい愛菜館（☎47-8700）等で販売されています。

8/8 戦争を語り継ぐ「鷓野飛行場展」



▲戦闘機「紫電改」の模型などを展示。

鷓野平和祈念の碑苑保存会が8月7日から28日の間、アスティアかさいで「鷓野飛行場展」を開催されました。

鷓野飛行場のパネルや戦闘機「紫電改」の模型などを展示。14日には、同会の上谷昭夫さんが、次代を担う子どもたちに戦争のことを正しく伝えていこうと、「紫電改と鷓野飛行場」と題して講演しました。

加西市のことなら

加西市のホームページをご覧ください。スマートフォンにも対応



かさい観光NAVI

遊ぶ・見る・食べるなどの観光情報が満載



子育て、定住支援情報



子育て・定住支援情報サイト



かさい子育てNAVI

子育てイベントや子育ての悩みを解決



8/8 ろうそくに火を灯し先祖供養



▲石仏の前にろうそくを灯す子ども。

五百羅漢のある羅漢寺で、石仏の前にろうそくを灯して先祖を供養する「千灯会」が行われました。

先祖や親、子に似た顔があると言われる400体余りの石仏がろうそくのあかりに浮かび、幻想的な世界を醸し出しました。

また、境内ではオカリナやハーモニカ、コーラスのミニコンサートもありました。

8/10 広島で平和の大切さを学ぶ



▲原爆ドームを訪れた中学生。

市内の中学生28人が、「平和学習バスの旅」で被爆地の広島を訪れました。

生徒は、平和記念資料館や原爆ドームを見学。焼けただれた遺品や遺構として残る姿を見て、戦争の悲惨さと向き合いました。また、6歳の時に被爆された白石多美子さん（77歳）の体験談を聴き、平和の尊さを考えました。

8/16 加西のお米と野菜でライスピザ作り



▲トマトを切る参加者。

加西市農村女性組織連絡協議会が主催の「親子料理教室」が市民会館で行われ、親子10組24人が参加しました。

参加者は、同会会員から料理を通じて、食と農のつながり、地産地消の大切さを教わり、加西のヒノヒカリやトマト、根日女みどり（甘とうがらし）などを使って、ライスピザとミネストローネを作りました。

8/18 市内の最高齢者をお祝い



▲住友さん（左）と高橋さん。

市内の女性最高齢者の住友松枝さん（108歳、坂本町）と男性最高齢者の高橋重雄さん（102歳、佐谷町）を西村市長などが表敬訪問し、長寿をお祝いしました。

高橋さんは「食卓にも自分の足で歩いて行って、できるだけ筋力を使うようにしている。それと、いろいろな食べ物を食べるようにしている」と長寿の秘訣を語られました。

播磨国風土記の里 加西

事業の取り組み等を紹介



テレビで緊急情報「まちナビ」

サンテレビのデータ放送で緊急情報などを発信



災害に備えて「かさい防災ネット」

災害時に避難勧告などの防災情報をメールで自動配信

